ZAKU III MEETING STRIKES BACK!!
ザクIII
21年前、"ザク"を目の当たりにしたオレたちに戦慄が走った
そうだ、オレたちはこんなメカを待っていたんだ……
そして『ZZガンダム』の放映が終わり
リアルタイムなザクの進化はいったんの終わりを告げる
そんななか、「このザクⅢはオレのザクじゃない」という
オレたちのザクに対する思いのたけを
かたちにしたのが前回のザクⅢ大会だったんだ
そして13年。オレたちのなかでくすぶり続ける
"ザク"への想いを、さあ、もう一度かたちにしてみよう……
AMX-011G (LP)
〈LARGEMOUTH PRESSURE〉
AMX-011S
〈ZAKUⅢ Custom edition〉
AMS-06N
〈ZAKU REGENERATOR〉

オレたちは13年待った。

大会2000

AMX-011GT
〈HOBEL BEAMER〉

AMX-011(PZ)
〈XEKU ALTERNATOR〉

AMX-011G
〈ZAKUⅢ with SKIRT EXTENTION BOOSTER〉

そして刻(とき)は廻る……。

AMS-06N
<ZAKU REGENERATOR>
新型だがじつはザクそのもの

大戦後期、ネオジオン軍は多数のMS開発にいそしむ一方で、拡大する戦域をフォローできる絶対数の確保に逼迫していた。開戦時の生産ラインにのっていたガザCは生産性こそ良好であったものの、それは基本性能やメンテナンス性を度外視した結果であり事実その損耗率も格段に高かった。そこで立ち上がった次期量産MS構想では一線を退いた一年戦争期のMSを再利用することで、コストを押さえ、かつ第二世代型MSに対抗しうる機体が検討された。これが後のザクⅢの基となる

AMS-06N　ザク・リジェネレーター
バンダイ　1/144　HGUCザクⅢ改 改造
製作・文／Qサマ
AMS-06N ZAKU REGENERATOR
Modeled and described by Q-SAMA

最初にザクⅢということで考えたのは、時期、状況的にアクシズの国力が疲弊してきたころの機体だし、戦局のヤバさを低コストの量産モビルスーツ開発でなんとか打開したいという思惑のなかで開発されたモビルスーツ、というセンで「新型のように見えていたが、じつはアレは一年戦争時のザクそのもの、ザクを流用、改造することでなんとか第二世代モビルスーツと対抗できる戦力として運用したかったが、いかんせん中身が旧式ゆえ首脳陣の提示したスペックを満たすことができず、ドーベンウルフとのコンペには見事敗退。けっきょく10数機の生産に留まった」という、いま流行のオレ設定（?）をデッチ上げました。リゲルグとかも同じコンセプトで作られたんじゃないか……と考えると、旧型モビルスーツを転用せざるを得ないネオジオンの苦しい状況が想像できて、楽しくないですか？（←ないか😅）

■ザクっていっぱいあるネ

今回のコンセプトはまず「ザクありき」なので、どのザクをベースにするか考えます。プロポーション的にFZもオモシロそうだったんですが、けっきょく、カトキ版ザクというスタンダードともいえる（?）選択になりました。昔、Bクラブからリリースされていたガレージキットのザク II に、FZ（こっちはプラスチックキット）の脚を合わせています。

■2個イチ作業（ちょっとチガウか）

モノコックボディであるがゆえに、あえてフレームとなるザクには手を入れません。モノコック構造って、そうそう簡単に[illegible]外せないような気がするし、外したらきっと機体を支えられなくなるだろーから。で、コレにザクⅢのパーツを、さも「強化パーツです」ってカンジにかぶせていくワケです。考え方としては、オレ設定どおり装甲の強化、推進力の増強を機体改造のふたつの軸として考え合わせるコトにします。被せられた部分は胸～肩周りを中心に、ほぼ増加装甲としての役割を担いますが、とくにコクピットまわりはハッチを追加し（赤い部分）、さらにハンドガードまで設置するという念の入りようにしてみました。推進力については、ザクⅢ自体がけっこうニスパーニア野郎なんでそのままですが、なんちゅーか、普通に設置するベクトルへのバーニアは多いんだけど、方向を変えたいときに困りそうだったんで、バックパックのプロペラントタンクはやめて全部バーニア化（でも、活動時間は短そう……😅）。カカトの回るツメは先月号の山中さんの作例と同じく省略。でも、埋めただけではザクⅠがドタ細になるイミ説明つかないので、大口径のバーニアを内蔵してみました。足首は「なかのザク足首とガッチリ固定されてないとだめだろー」ってコトで、デカいフレームをツマ先にレイアウト。コレはザクⅠの足首装甲をブチ抜いて、なかのフレーム部まで直結されてるという設定です。

■製作テキストは書いてもナー

こんなモケーだから、きっと読者の皆さんにはなんの参考にもならないと思うので、製作文はちょっとだけー。

スカートまわりは、のぺーっとつながるサイド部分がヤだったんで、削りこんで面を分けたりしています。バックパックはバーニア接続部の可動を廃して、流用パーツでデコレート。全体にバーニアが小さい気がしたんで、すべてコトブキヤのものに変えてます。スカート裏はくり抜いて、流用パーツを詰めましたが、あんまり見えませんナ（汗）。

塗装はザクⅠ部分は当時のカラーがコンセプト上わかりやすいんで、薄いグリーンの濃淡。ザクⅢ部はそれよりも濃いグリーンの濃淡で計4階調のグリーンを塗り分けましたが、コレがなかなかに微妙で……。

ZAKU Ⅲ MEETING STRIKES BACK!!
ザク大会Ⅲ 2000

試作機であるAMX-014ドーベンウルフと比較し、
火力の絶対的不足を指摘されたAMX-011の
開発陣は、急遽大型のビームバズーカを開発して
装備させるプランを提案。
だが、AMX-014の真のアドバンテージは
誘導兵器の標準装備にあり、単純な火力の増強で
これに対抗することは難しいと判断されたために
計画は中止された。

さて、お題のザクⅢですけど、旧キットが発売されたころってちょうど改造して自分的に満足行くモノが仕上げられることができるようになったころで、「ZZ」放映時は個人的にいちばん完成品が多かった時期だったんですよ。だから、このころのネタはどれも思い出深いんですよね。

■頭
旧キットを流用してます。基本的なかたちはそのままですが、横幅をけっこう詰めています。モノアイシールドをヒートプレスパーツで作り、モノアイ自体は発光ダイオードを使って点灯可能にしてあります。コクピットハッチの下にスイッチがあるのですが、スイッチが硬いので点灯させるには少々勇気がいるかも(笑)。動力パイプは真ちゅう製のものに交換しました。

■上半身
キットの足首を底辺とした3角形のようなシルエットがイヤだったので、胸部分はかなりボリュームを増やしています。
ハッチ部分や、肩関節、首の付け根等はマスターグレードGMクゥエルからの流用です。
腹部分は設定のままだとのっぺりしてしまうので前面に角度を付けてあります。

■腰
前述のとおり、基本シルエットを変更するためには股関節部分の幅が狭すぎるのでここは旧キットを流用しつつ作り直し、それと、バックパックは設定では腰から伸びるブロックに固定されているハズなので、そのように作り直してあります。フロントのスカートアーマーも長さ、形状ともに大幅に変更。エクステンションブースターはプラ板製。バーニアはマスターグレードGP01-Fb×2個ぶんかな。

■足
モモ部分は前後に幅が有るような感じに直してあります。足は外側のかたちはほとんどそのままですが、内側がスカスカです。市販パーツを貼っておしまい、ってワケにもいかないので、GMクゥエルのすねフレームを移植して、ついでに関節も増設してあります。足首は爪先のかたちを変えた程度です。

■バックパック
とくに頼まれたわけでもないのに(笑)中距離航行用ランドセルにしてみました。過去のザクⅢ大会でもエクステンションブースターとの組み合わせがなかったので、個人的にやってみたかったんですよ。タンクはウェーブ製のもので、バーニア部分とバインダー部分はプラ板製です。

■腕
左肩を旧キットから持ってきています。上半身の大型化で肩が貧弱になったので、プラ板貼ってひと回り大きくしてみました。下腕も同様の理由で2㎜程延長しています。手首はなぜか1／100用の市販パーツを使っています。

■武装
でかいっすねー(笑) PGザクのバズーカよりでかいってどういうことだって感じですね。で、この武装、じつは流用パーツのカタマリだったりします。芯がMGジム付属のステーケンバズでパネル部分がエヴァの某パーツ、うしろの部分はサーペントのバズーカだったりしますが、言わなきゃわかんないかも。あんまり大きいもんでシールドが干渉してしまうので、バッサリ切ってしまってます。

■最後に
いやあ、それにしてもPGがふたつ買える程本体に流用パーツ使っていたりします。よい子はマネしちゃだめですよ～ホント。
今回製作させていただいたこのHGUCシリーズ、もう少しZやZZの敵メカもラインナップしてほしいですね。個人的にはとくにドーベンウルフ希望(笑)。

<LARGEMOUTH PRESSURE>

AMX-011G(LP)

AMX-011G〔LP〕 ラージマウス プレッシャー
バンダイ 1/144 HGUCザクⅢ改造
製作・文／依田英明
AMX-011G(LP) LARGEMOUTH PRESSURE
Modeled and described by Hideaki YODA

これぞ、大艦巨砲主義の権化

「コロニー落とし」作戦を妨害する敵機を駆逐する目的のために
スカート・エクステンション・ブースターを改良強化し
加えてAMX-102ズサのブースターを背部多目的ラッチに
さらに肩部にはAMX-006ガザDのスラスターを装着し
格段に推力と機動力を向上させた強化人間専用の特攻用機体

AMX-011GT

〈HOBEL BEAMER〉
AMX-011（PZ） ホーベルビーマー
バンダイ 1/144 HGUCザクⅢ改 改造
製作・文／しんま
AMX-011GT HOBEL BEAMER
Modeled and described by SHINMA

顔面に決戦兵器は基本!?

前半のコミカルな雰囲気から急遽シリアス路線に軌道変更、スーパーパワーを誇るMSが乱戦を繰り広げる『ZZ』後半戦。とりわけマシュマーのザクⅢカスタムの戦闘シーンは凄まじく、あのクインマンサと互角に渡り合い、ラストのドーベンウルフ戦でも鳥肌モノの散りざまを見せてくれます。ああ、何度ビデオで繰り返し見たことか(笑)。そんなこんなで、思い入れたっぷりのザクⅢ、元デザインも大好きなんですが、今回は大会ってことなので、オリジナル仕様でいってみることにしました。

■強化人間専用突撃MS!

「オメーはバカやっていいから(笑)」ってことになったんで、チョーシこいていろんなパーツもってきたら、こんなになってしまいました(笑)。いちおうコンセプトはあります。十数年前、前回のザクⅢ大会に掲載されたスカート・エクステンション・ブースター装備のザクⅢはボリューム感たっぷりで超絶にカッコよく、それのマネしてロングスカートを着用したようなシルエットにしたかったのと、劇場版ナデシコのブラックサレナの単機突撃していく姿がかなりカッコよかったので、こういうふうにまとまりました。あと、当時存在した機体各所に設けられたマウントラッチの設定をできるだけ取り込んでいます。

■製作!

一から、スカートのボリュームを強調するため、足は全体的にシンプルに。足首はブロック単位で分割し一部デザイン変更。スネはキットを2体ぶん用いて内側同士を接着しラインをなじませます。太股は裏打ちして削り込みました。ザクⅢのデザインのキモはフンドシのフレームで直結する背部マウントラッチだと昔から思っていたので、ここは旧キットからパーツをチョイス。サイドのデカいスカート・サブブースターはいろんなプラモのパーツ&テキトーに寄せ集めてポリパテでまとめたもの。ビームキャノンは「ガンダムセンチネル」のガザEのイメージ。やっぱりジオン系MSはハッタリがほしいということでスパイクを打って男らしさを演出(笑)。テール部はガゾウムの肩をほぼそのまま。腕も市販のバーニア部品や流用パーツを用いて若干デザインアレンジを加え構成。肩にはガザDのミサイルポッド兼ブースターを装着しました。胸部はほぼそのままで、脇の武器用ラッチは流用パーツで大型化。ガザDのナックルバスターを強引に接続しています。

さて頭部。あくまでナックルバスターは副装備、端部のビーム砲こそこの機体の主武装です。アタマに波動砲つけたダブルゼータがライバルなんだから、やっぱザクなら突き出たクチバシからびゅーっとぶっといビーム出すのが当然じゃなかろうか(笑)と決めつけて口径を大型化。といっても08小隊のHGザクの頭部にほかのキットのパーツをつけただけですけど。ブースターのシルエットはこれもガザEがイメージソースです。

■カラーリング&マーキング

大会というからには目立たにゃ損なので(?)、赤系でガザっぽく。恐れ多くも有名なあの方やあの人専用ってセンも考えたけど理性を働かせて自粛(笑)。基本色に蛍光カラーを混ぜて発色をよくしています。デカールは懐かしい～Bクラブ製のものから、名機ザクⅡへの憧憬を込めザク頭のマーキングを選択。

■癒しのガンプラ

モビルスーツは現実の兵器っぽい魅力もあるけど、巨大ロボットで大マジな戦争やってる荒唐無稽なお話のキャラクターでもあります。あまり難しく考えない、今回みたいな他キットからのパーツ寄せ集めも楽しみ方のひとつってことで……。

ザクⅢ大会2000
ZAKUⅢ MEETING STRIKES BACK!!

ザクⅢはじつはゼクだった

AMX-011(PZ)

〈XEKU ALTERNATOR〉

AMX-011（PZ） ゼク・オルタネーター
バンダイ 1/144 HGUCザクⅢ改 改造
製作・文／造型無宿
AMX-011(PZ) XEKU ALTERNATOR
Modeled and described by ZOKEIMUSHUKU

旧ジオン公国の技術者の開発による、名機「ザクⅡ」の直系の後継機であることが大々的に宣伝されたAMX-011だが、実際は地球連邦軍教導部隊（ニューディサイズ）の解体後、アクシズへと脱出した同部隊の主力機種ゼクシリーズの基本設計が大幅に流用されていることは、読者の間では「公然の秘密」と言ってよかった……。

このHGUCシリーズ、パチパチポンで組み上がりはほとんど色塗りも不要。こだわらずにヒーリンググッズとして活用（とくにファースト世代）するのが正しいかと思われますが㊟、このザクⅢに関しては個人的には少しイメージギャップが……。

■オレ設定

とはいえ、ちゃんとした作例は先月号に載ってますので我々はオレザクⅢ担当（と勝手に解釈）。まず参加者でディスカッションしながらそれぞれのコンセプトを決定していきます（これが楽しい！）。で、私は「ザク㊟はじつはゼクだった」の担当に。

実際この二機はザクⅡの正当な後継機として開発されたものだし、きっとアクシズはゾディ・アックと交換で手に入れたゼクシリーズ（オレ設定㊟）をベースにして作った新型MSに、戦意高揚のために「ザクⅢ」と名付けたんだ！ そうに違いない!!

とか妄想しつつデザインを詰めていきます。

■頭

いきなりまるまる新造。コンセプトは「フォルムはザクだけど構成はゼク」。

■胴体

胸はキットをベースに、手近にあったレジンパーツ等を貼り足し、ポリエステルパテ（以下ポリパテ）でラインをつなげてかたちにします。腰部は、最近のMSを見慣れた目には違和感のあるラインなんですが、ほとんど隠してしまったのでそのまま。コクピットはラインに合わせて大型化。

フロントスカートは反則。ゼク・ツヴァイを彷彿させるライン……というよりそのまんま㊟。ちなみにオフィシャルなザクⅢと同じく、隠しビームガンとしても機能するという設定。リアスカートは、巨大なプロペラントスペースと解釈して内側にビートプレスパーツを貼り付けてあります。

動力パイプは、実際はこの時代のMSにはやたらと生えているのですが、どうも「ザクⅡの2世代後のMS」という感じじゃないので、シュルツェンふうのパーツで隠してしまいました。決してプラスパイプが手に入らなかったからではアリマセン㊟。

■脚

ここも、じっくり設定画を見ていればゼクの脚に見えてくるはず（かなり電波）。まず膝関節は、見ための可動軸と実際の可動軸がずれているのがイヤだったのでサンドロックカスタムのものと交換。脛は、内側のえぐれたラインをポリパテで埋めてゼクっぽく。膝ブロックと足の甲にかかるアーマーもそれっぽく自作。脛の外側は、途中で消えてしまうバルジがどーも……だったので、固定式のプロペラントタンクと解釈しました。

■腕

ゴリラっぽい雰囲気（？）になるように、前腕は1/100サーペントから切り取ってきたブロックを貼り足して延長。アーマー類は旧キットからの流用です。

■バックパック

ここもゼクツヴァイのデザインを流用。シュツルムファウストを片側2×2の4本にしてひと回り小さいことを演出してみました。左右でファウストの取り出し口がオフセットされているのは、こうしないとなかでパンツァーファウストの持ち手がつっかえるからです㊟。

■マーキング

完成してみたらほかの方の作例のインパクトがスゴかったので㊟、ここはひとつ、マーキングだけでもと思いハデ目にドーンと自作デカールを貼りつけてみましたがいかがなもんでしょうか。

■あー楽しかった

こういう「勝負だー！」「オウ、受けて立つぜー」みたいな楽しみ方もアリよね。

あのとき生まれた子はもう中1!? ってオヤジ臭っ

うーん、もう13年前になるんですねー(しみじみ)。前回のザクⅢ大会が開催されたのはVol.29('87年3月号)、参加したのは新井智之、草刈健一、横嶋みゆき星野利寛、そして長谷川やすよし氏(また作るとは思わなかったでしょ)というメンツ。ちなみにこの号の在庫はないので、古本屋さんをさがしてねー

AMX-011G(LP) LARGEMOUTH PRESSURE

〈ラージマウス・プレッシャー〉はこのビーム兵器に付けられた名称であり、本体自体は右肩アーマーを専用の物に換装する以外にとくに変更は予定されていなかった。この武装はジェネレーターと一体化された大型の携帯ビーム兵器で、単体稼働し、大出力にも係わらず連射することが可能。

▲大きな武器に目がいってしまいがちやけど、本体にも注目してやー。先月の長谷川氏の作例と見比べてみてもおもろいでー

AMX-011(PZ) XEKU ALTERNATOR

競作機となったドーベンウルフは連邦軍オーガスタ研究所で開発されたガンダムMk.Ⅴを設計のベースとしているが、奪取されたガンダムMk.Ⅴとゼク・シリーズも同時期に使用されていたりと、不思議な因縁話が……。

ごっつでかいでがな

コレは、どないやねん!

なんや、ザクIIIやと暴れられるのう

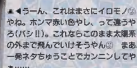
(コレは広島弁?)

というワケで、4体の〝オレザクⅢ〟が集結っ! みなさん、ザクⅡだと思い入れが強すぎてか、設定をまじめに考え込んじゃうんですが、ザクⅢだと、逆にそれぞれの思い入れが大炸裂してしまい、歯止めが利かなくなってしまうっちゅうねん。

▲▶まさに造型無宿らしいやりすぎやねー。これじゃ、ぜんぜんザクⅢとちゃうやん、ほとんどゼクやんけってのはいいっこなしってことにしといてな

ザクIII大会2000

ZAKU III MEETING STRIKES BACK!!

高っかいなぁ～通天閣並やな

AMX-011QT
HOBEL BEAMER

ZZのように本体に大口径ビーム兵器を装備した機体に対抗すべく、S型では省略された嘴部のビーム砲を、大出力大口径のものに変更し主武装としている。この変更にあわせ、胸部に配置されていたコックピットは背部ブースター側に移設され、機体コントロールはすべてブースター側で行なう。

▲◀うーん、これはまさにイロモノやね。ホンマ赤い色やし、って違うやろ(バシ!!)。これならこのまま太陽系の外まで飛んでいけそうやん　まあ、一発ネタちゅうことでカンニンしてやあ……

ザクはザクやろが？なにがアカンの？

▶◀なんやコレ。なかにザクがまんま入っとるがなー　モビルスーツは数あれど、ゲタ履いとるモビルスーツはあんまおらんなぁ。これ、どーやって脱いだり着たりするんやろ。うーん、苦悶の質感がようでとる　ごくろうさん

AMS-06N
ZAKU REGENERATOR

この〈ザク・リジェネレーター〉ではジオンの最多生産数を誇る傑作MSザクIIの残存機を流用しつつ推進力と装甲の強化、活動時間延長などを基軸に再設計、追加装備の検討がなされた。しかし、ムーバブルフレーム構造のMSでは容易に行なえる装備の追加、変更も、モノコック構造のザクでは技術的に困難であり、結果として外付けで装備を設計、付加するスタイルに。

大日本絵画 昭和62年3月1日発行(毎月1回1日発行)第4巻第3号 通巻第29号
昭和59年3月11日第三種郵便物認可
月刊
モデルグラフィックス
Model Graphix
見えない戦闘機
ステルスの正体!?
がんばれジオン!
ザクIII大会
●AERO MODELING
ユンカースJu-87G
ポリカルポフI-16
●AUTO MODELING
ポルシェ
MGスペシャル
'87期待の新星
機甲戦記ドラグナー
オネアミスの翼~王立宇宙軍
公開直前プレビュー
宮崎駿 雑想ノート
安松丸物語〔つづき〕
●AFV MODELING
四号戦車A型
九五式戦車
1987
MARCH
3
VISUAL
MONTHLY FOR
EVERY MODELER
Vol.29 580YEN

ModelGraphix

1987.3
vol.29

4 ZAKU III type G
新井智之

68 PORSHE959C
河原誠

96 JUNKERS Ju-87G-1
吉沢中央

102 Light Tank type 95
無限軌道の会

137 特設空母安松丸物語(続)
宮崎駿

スタッフ　ARTBOX・編集長市村弘　編集　岡崎宣彦・松井和夫・小泉聰・河村智子・朝野正彦　デザイン　今井邦孝・丹羽和夫・金子隆・行木朋子　撮影　奥村正己・小池徹弥　スタイリスト　平瀬教子　広告　松本邦之　発行人小川光二

表紙撮影　奥村正己

CONTENTS 目次

AERO MODELING

AFV MODELING

AUTO MODELING

The Five Star Stories:8

ZZ-GUNDAM

ORIGINAL STORY

MG SPECIAL

ザクIII/バリエーショナル・コンペティション

All of based kit/from a BANDAI1:144scale"ZAKUIII"
Modeler/Ken'ichi KUSARI, Toshiaki HOSHINO,
Yasuyoshi HASEGAWA, Tomoyuki ARAI,
Miyuki YOKOSIMA, and Mitsuhiko HOSHI

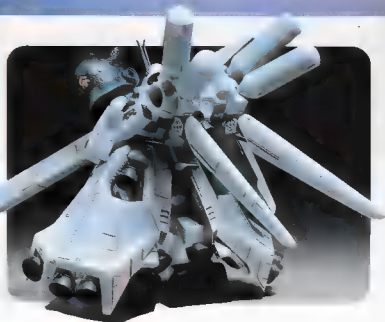
ザクIII/バリエーショナル・コンペティション

All of based kit/from a BANDAI 1/144scale "ZAKUIII"
Modeler/Kenichi KUGAI, Toshioki HOSHINO,
Yasuyoshi HASEGAWA, Tomoyuki ARAI,
Miyoji YOKOSIMA, and Mitsuhiko HOSHI

ZAKU MEETS!
VARIATIONAL COMPETITION

AMX-011G ZAKU III

Modeling by Tomoyuki ARAI

ザクⅢ・G型(エキステンション・ズースター装備型)
製作／新井智之

頭上の脅威

先行試作型として6機がロールアウトしたAMX−011は、
ラカン・ダカラン隊へ配備され、テストを備ねてダブリンへの
「コロニー落とし」の実戦に参加した。コロニーと共に長時間、
宇宙空間を移動しなければならないザクⅢは大量のプロペラントを
必要とし、その為に大型のプロペラントタンクを装備した
ロング・スタビレーター付バックパック、エキステンション・
ブースター付スカートを取り着けたG型が急[illegible]製作された。
飛行ベクトルを安定させたまま上半身を動かす事が可能な
このザクⅢは、プロペラントの消費を量少減に押さえながら
射撃姿勢をとる[illegible]が出来る実に便利なMSである。
もちろんこのオプション[illegible]取り外しが可能であり、
MSとの接近戦では全て[illegible]排除し戦闘に突入する。
新井ちゃん作のザクⅢは、ジ・オ並のボリュームを持つブースター[illegible]型だ。
バックパック[illegible]新井ちゃんのオリジナル、タンクとスタビレーターが
ビシリバシリである。各部にはあの元祖・本家・老舗の
『新井ディティール』がこれまたビシリバシリだ。
カラーリングは覚えたらそればっかのロービリティ塗装で完成。

AMX-011R-1A ZAKUIII

Modeling by Ken'ichi KUSAKARI

U.C.0088の「白狼」!?

U.C.0079の一年戦争当時、26歳という年令にして開戦より5隻のサラミスとマゼラン１隻を単独で撃沈せしめ、
ドズル中将戦[illegible]視察の折に中将の護衛を務め上げた猛者がいた。
MS-06R-1A、ザクⅡの高機[illegible]中期生産型をホワイトとグレーで塗装し、
「白狼」と恐れられた男―――シン＝マツナガ大尉。
そしてU.C.0088、ネオジオン軍によって開発された、
AMX-011・ザクⅢを同じくホワイトに塗装し、たて続けにアイリッシュ・タイプとサラミス改を沈めた「白狼』がいる。
一年戦争後行方不明となっていた、シン＝マツナガ大尉・その復活であった……。
シン＝マツナガ大尉機に見立てて、キットをいじってみた。
頭部・腕部はアレンジによる新作、新型ヒートホーク[illegible]構える。
その他は、なるだけキットを生かした作りとしており、カラーリングで印象を変えている。
イメージソースはもちろんシン＝マツナガ機であるが、
以前小田雅弘氏が製作したMS-06R-1A改のカラーリングを踏襲し、ブルーをアクセント・カラーとして完成だ♪

ザクIII改(シン＝マツナガ大尉機)
製作　草刈健一

AMX-011MC ZAKUIII

Modeling by Miyuki YOKOSHIMA

ザクⅢ改(マシュマー・セロ カスタム)

[illegible]/[illegible]みゆき

マシュマー、散る。

ハマーン＝カーンに忠誠を誓い続け、
ＺＺガンダムを常に狙い続けたマシュマー・セロ。
しかし、彼を墜としたのは皮肉にも、
先日までは同志であった
ラカン・ダカラン隊のドーベンウルフであった。
そのマシュマーが最期の乗機として選んだのが、
ザクⅢ改である。
別冊ミッションＺＺ用に製作したザクⅢ改を、
アニメーション設定に近ずけるべくリファイン。
ひざ、足首、頭部などが大幅に改良され、
表面ディティールも追加された。
カラーリングは別冊当時、
判明していなかった為グレーだったが、
今回は設定通りグリーンに変更している。

しぇからしか！わちが三代目ぢゃ!!

ザクIII競作 会 MEETS"

ザクIII

◀ザクIIIのフロントパース稿。何といっても特徴的なのは、フロントアーマーに内蔵されたメガ粒子砲か。残念ながら、1/144のキットではこの最も重要であろうギミックがオミットされていて、思わず■してしまった。(あー、1/100が出ていれば……。)

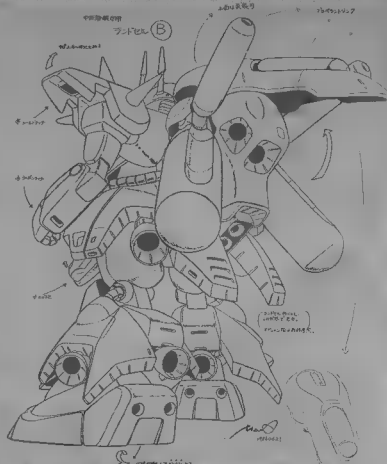
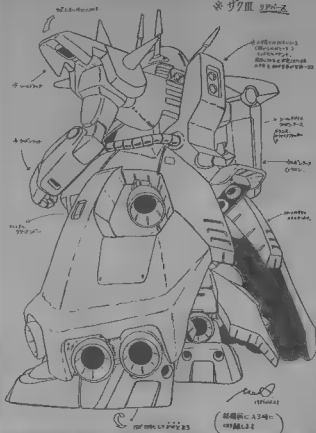
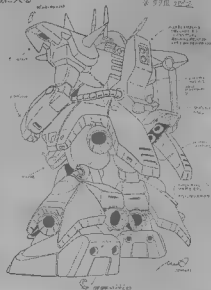
▼胸ブロックから飛び出ているのは、ダクトでは無く、バズーカマウント用のラッチだった！（ＴＶじゃ、マシュマー機がバシュ〜〜〜とかエアーふいてたケド……)。星選手の作例では、それをちゃんと再現してみた。

〔機体解説〕

U.C.0074年、ザクの原点とも言えるザクＩが、ZIONIC社によりロールアウトした。それまでのＭＳ—04に見られた無駄の改善を続け、完成を見たこのＭＳ—05ザクＩは初期生産分27機によって実戦部隊が設けられた。ＭＳの開発に大幅な遅れをとった連邦軍に対し、ジオンはこのザクＩにさらに改良を加え、ＭＳ-06ザクIIとして完全戦■ＭＳがようよく完成を見た。このザクIIは白兵戦用モデルである、ＭＳ-07グフ等へ進化すると同時に様々なバリエーションモデルを生み、ア・バオア・クーの最終戦に及んでもその汎用性は高く買われ、連邦軍の■Ｘ—78ガンダムと並ぶ屈指の傑作ＭＳとして歴史に名を残した。1年戦争終了から７年後、連邦軍はその ZIONIC 社のメカニズムとアナハイムエレクトロニクスの技術を併合させ、ＲＭＳ—107ハイザックを完成させた。続いてやはりザク系のメカニズムを多く取り入れたＲＭＳ—108マラサイが登場し、この２機は〝連邦のザク〟と呼ばれた。

が、アクシズへと逃げのびた旧ジオン軍科学者■は、この連邦製ザクをザクとは認めず、ガザ・シリーズ展開と同時に〝ジオンによる本物のザク〟の開発を続けた。ＡＭＸ—101ガルスＪにおいてわずかながらその〝ザク〟の面影を見せたアクシズ製のＭＳは、ネオジオン軍を名乗った後に開発されたＡＭＸ　011・その名もズバリ〝ザクIII〟において一応の完成を見た。このザクIIIは、旧ジオン軍のザクIIと同じく実に汎用性の高い機体であり、■■及びフロントアーマーに固定武装として■み込まれたメガ粒子砲が特徴といえる。もちろん、大気圏内・外の装備も用意され、リゲルグと共通のランドセルを装備するＦ型、エキステンション・ブースター装備のＧ型、又、ワンメイクの改良機としてＭＣ型、Ｒ—１Ａ型などその生産数に見合わぬ程のバリエーションを終戦までのわずかな期間に生んだのは、やはり旧ジオン兵が最も馴染み深い〝ザク〟であったからであろうか——。

■Ｓ単体としてはかなりのポテンシャルを見せたザクIIIではあったが、ニュータイプならずともサイコミュ並の攻撃方法をとれるインコム・システムを内蔵するドーベンウルフや、ファンネル・ビット・システムの化物とも言えるゲーマルクやクィン・マンサの前では影が薄かったのは、■然だったのかもしれない。

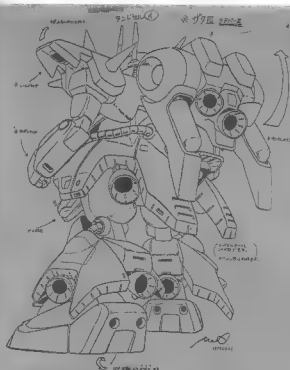
[illegible]

後部スカートに、大型のエキステンションブースターを装着したタイプ。大容量のプロペラントと多数のスラスターを内蔵し、宇宙空間での活動時間を飛躍的に延長させた。格闘戦に入る時に切り離し、後に回収して再利用する。安価な棒状のプロペラントタンクに比べ、そのコスト高から重要な作戦以外では使用されないケースが多い。

中距離航[illegible]セ[illegible]

推進用ノズルと多数のプロペラントタンクを装着したランドセル。リゲルグの様に放射線状に突き出した大型のプロペラントタンクには、半埋め込み式に小型のプロペラントタンクが取り付けられている。又、センターブロックにも小型タンクを組み込んだバインダーが装着されており、推進ノズルを使用していない時は、シールドとしての役割も果たす。そして、前述の小型プロペラントタンクとこのバインダーは、その可動によりAMBACシステムとしても使用可能であり、宇宙空間において高い運動性を示す。

▶ランドセル（バックパック）を装着していない状態のザクIIIリアバース。アニメーションの決定稿ではオミットされてしまったが、手首付近のウェポンラッチ、ランドセルマウント基部のウェポンラック（パイロン）、肩スパイクアーマー内のシールドラッチなど、模型になった時のプレイバリューを考慮に入れたデザインと言えよう。模型製作の際には、このあたりのディティーリングは大いに参考になるであろう。

◀▼今回のザクIII大会用に、長谷川選手が製作したマラサイIIは、この中距離航行用ランドセルを装着している。が、大型のプロペラントタンクは中型化し、その上に装着される小型～は、ビームサーベルへと変更。もっともギミックは生かされており、御覧の様に可動はする

小田雅弘氏にチョビッと聞いてみた。

「元々ザクIIIはね、ザク版のストライク・ドッグって感じがあってね。こうひとまわりデカくってね、実際大きいでしょ。ハッキリ言っちゃうと、「ザク」っていうキャラクター性って、対ガンダムっていう図式が割と楽に成り立っちゃうし……[illegible]士っぽいのがほしかったんだよね。モロに仇役、ってな感じの。3本ツノは、Zの時大河原さんが描いたザクIIIってのがあって、後にそれがマラサイへの流れになったんだけど、その時3本ツノだったんだ。そのイメージ。あと、口のメガ粒子砲、あれは割と異和感の線を[illegible]的に狙ったのね。口に向かって延びてるパイプあるでしょ、あれは動力パイプじゃ無くてエネルギーチューブ。[illegible]のも同様。結局、8年の流れの中で、シルエット的にはパイプの位置こそ変っていないものの、用途はもう全く別物……っていう感じだよね。足のパイプに関しては、やっぱりコレはどうしようも無いって事で、動力パイプ(笑)。あとね、もっと枚数描けば面取り的にはキット

空間機動作戦用

最もノーマルなランドセルとして、多数のザクIIIに配備されたもの。プロペラント、ミサイルを装備したもので、ミサイルは片側6発×2の計12発収納。一度に6発、フタを飛ばして打つ。又、このミサイル収納スペースには対ニュータイプ撹乱用バイオビット（一種のスモークの役目を果たす）も装備が可能であった。もっとも、このバイオビットはほとんど活躍する事無く終った。まさか、グレミー・トト配下のキュベレイMk.IIの、無数のファンネル・ビットが敵に回るとは予想もしなかったであろう……。

▲小田氏のデザインを、明貴版に描き直したといった感じのザクIII改MC型。エキステンションブースター装備型風の、テールスカートが実にユニークでありアクセントとなっている。頭部は、(ザクII＋マラサイ)÷2といった感じで、口に内蔵されていたメガ粒子砲はオミットされている。又、フロントアーマーのメガ粒子砲が抜けてビームサーベルとなるのも、このMC型のみである。

ザクIII頭部。口にあたる部分は独立可動する。何故かと言えば、これは口がメガ粒子砲となっている為であり、ザクIIと同じ"口"も、ここまで進化した訳である。が、これに関しては賛否がかなりハッキリ別かれた様で、結果的(?)にはザクII風に退化(??)したMC型の頭部もブラウン管に登場する事となった。

左肩のスパイクアーマーには、実はこんなラッチがあった!? 結局TVでは使わずじまい、という感じだったが、先端が独立していたのはこういったギミックが取り入れられる為だった。

▲このように、腕を180°回転させてバズーカを保持した時、わきの下にバズーカをはさみ込んだ場合砲身は体に対して同一線上を向く。(要するに、ドムのキットとかバズーカ持つと砲身が外向いちゃうでしょ?) けど、ヒジパーツが無可動になってしまった分、みキットでは再現は不可能となってしまった。

でも正確出たかもしれないと思うんだけれど、ある程度「ザク」という枠を考えた場合、各自の解釈の介入する余地をね、残しておきたかったのも事実かもしれない。だから、今回の企画も参加こそしなかっただけどね、十人十様の解釈がすごく面白かった。これでいいと思うんだよね。期会あればキットベースででも、今、自分で想ってるザクIIIのイメージで作ってみたいと……スーパークルセイダー、クルセイダーIIIのイメージなんだけど……（あ、始まった！　また訳わかんないぞ）まあ、とにかくキットが出てくれたんだから、色々いじって楽しもう、ってな感じでいいかな?」

（2月7日深夜　TELにて）

COVER/Design & Modeling by Makoto KOBAYASHI

完璧版。

モデルグラフィックス別冊　機動戦士ガンダムZZ

定価980円　全国書店・有名模型店にて絶賛発売中

早くも在庫無し！　書店へ急ごう!!

ガンダムウォーズIIミッションZZ

ZZ版MSを[illegible]全網羅

ZZガンダムTV本編に登場する、新型モビルスーツを完璧に収録します。ガルスJ、ガザDに始まり地上編で活躍したドワッジ、GMIII。再び宇宙に上った後に登場したドーベンウルフ、メガ・ブースター装着ジャムル・フィン、ゲーマルク。そして[illegible]MSとなるクィン・マンサまで、その数ざっと40種以上。完全保存版、これは買いだ。

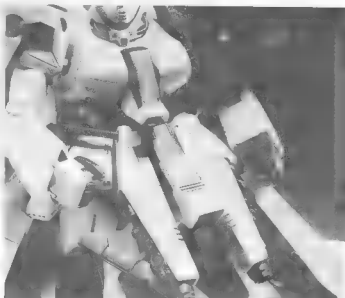
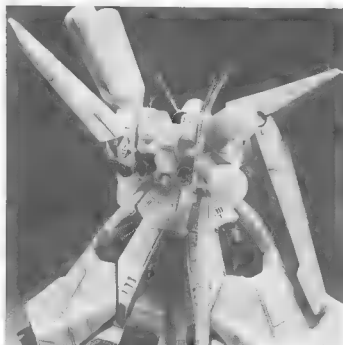
MG版ガンダム[illegible]史

旧作ガンダムから8年。ひとえに『ガンダム』と言っても、RX−78、RX−178、MSZ−006etc. と実に多彩。これにGM・百式等を加え、さらにMGオリジナルのレイピア、ハーピュレイ、Zplus、エプシィ等のガンダムをイラスト／明貴美加・解説／仲童舎の現役ガンダムスタッフで発展史としてまとめ[illegible]す。MGだけの企画、買いだ。

精鋭ライター陣大活躍

6年間の長きに亙るガンダムプラモ・ブーム。ベテランから新人まで、精鋭ライター陣による競作となります。表紙はもちろん、ZZのデザイナーでもある小林誠氏自からのデザイン&造型。そして草刈健一・千草巽・佐藤直樹各氏による大型スクラッチ、若手では元祖地獄モールドの新井智之氏、中沢博之・鈴木信夫諸氏等々、もう買いだ！

[illegible]発生

去年2月に発刊された〝ガンダムウォーズ・プロジェクトZ〟。発売直後に完売・在庫ゼロ！という状況でした。とゆー訳で、今年の〝ガンダムウォーズ・ミッションZZ〟も、全く同様の事態になってしまいました。現在、在庫は0の情況です。どうしても手に入れたい君は、がんばって書店廻りをしてもらうしかないのです。グッスン!!

◀バックパックは、プロペラントタンクとテールスタビレーターを取り付けたままブルンブルン動く。又、テールスタビレーター自体も独立して可動する。

■フロントアーマーのメガ粒子砲は、大■化。ただ、これを前に出した場合グリップ握れるのかなぁ？？？

闇にのさばるMSども！てめーらの[illegible] [illegible]せねえ！天に変わって[illegible]する!!

[illegible]と[illegible]緒に[illegible]訳り

バン[illegible]ール[illegible]ット改造 [illegible]テンション・ブースター装着型)

ザクⅢスカート・エキステンションブースター装着タイプです。かるくゆーと後にでっかいスカートがくっついたものです。このスカート、なかなかくっつかないんでもうごーいんにつけちゃいました。設定より多少左右に■いてしまいましたが、まあ大目に見てくださいまし。

製作

足　足首は上面をカットしてエポパテ・ポリパテで作り直します。さらに、足底にプラ板をはって、つま先を１センチ程のばします。スネは、前のアーマーと、スネ外側をポリパテで延長し、一回り大きくしました。又、外側だけですが複合装甲に少々こってみました。ももですが、ここは全体にポリパテをもって太くしています。

腰　まずキットの腰をむりやりペンチで左右に開き、その上にポリパテをもって大型化。ここも複合装甲を再現。前部のビーム砲はプラ板と流用パーツで新造。中央のバーニア部はプラ板で作り直します。後はバーニアむきだし型にしました。

胸　胸左右・中央コクピット部の三つに分けて、コクピットをつめて細くし、少々ハの字型に左右を接着。■下面のラッチは、星野君の複製のフィンをつけました。(他、大型のバーニア類はほとんど星野君にもらったキャストの複製品です。星野君どーもねーっ。)

色はセーラー服反逆同盟風になってしまった～

腕　キットのままです。左の肩アーマーは、100分の１のハイザックのものをつめてポリパテをもってつくってます。とげはエポパテです。右肩のシールドはプラ板で厚くして、さらに延長しました。

頭　エポパテで新造。好みの形にしちゃいました。(鳴君のにてるなあ)

ブースター　最初バルサ原形のヒートプレスをしようと思ったのですが、あまりのでかさにバルサがもったいなかったので、プラ板のはりあわせにしました。腰のスカートとは、プラ棒で脱着可能にしています。

バックパック　中央はキットのままです。左右にプロペラントタンクを２個ずつつけられるように、つけ根をプラ板で作ります。プロペラントタンクはアクリルパイプを使っています。下には、ヒートプレスによるロングテールスタビレーターをつけてみました。(これ好きなんですよね)

ビームカノン　プラ板の箱組です。先端はプラパイプにポリパテをもってできています。トリガーがないのでどーやって射つのか、まったく不明です。

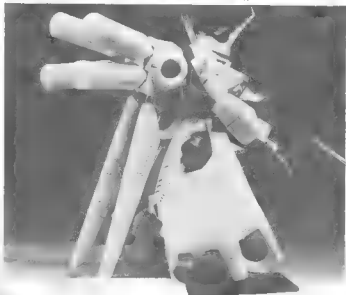
ディティール　いつものです。今回は内装ははぶきました。

■■　薄いグレーと白で※ロービジ風。アクセントに黒を使って、わりとおちついた色あいにしました。

エンドに今回のザクⅢ大会で一番納品の遅かったのは、例によってこの僕でした。試験にも重なっていたため、またしあげがおろそかになってしまいました。どーもすみません。

▼サイド・ビュー。もうほとんど、ジ・オ並のボリュームだっ!!

▼三本ツノを生かしながら、ボリュームの[illegible]した頭部。

ZAKU MEETS!
VARIATIONAL

■ランドセルは、左右の円型ブロックをキットから流用、あとはプラ板の箱組みにディティーリング。

▶ヒートホークならぬ、ヒートなた。「だってよー、バズーカ持ってふんばりポーズってもうあきちゃったしよー。」(草刈談)

ケンちゃんと、遊ぼーっっ!!

1/[illegible] 改造 AMX-011 [illegible]・マツナガ大尉機)

[illegible]刈健一

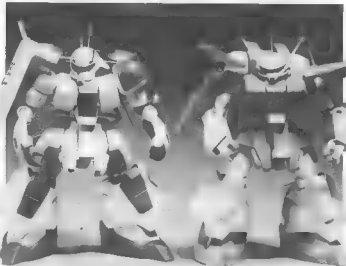
ども、草刈です。久しぶりのザクであります。ハイザック以来1年半程たつでしょうか、なつかしいやら、うれしいやらのザクIII特集、手の遅い私めは白いやつとなりました。カラーリングが白いということは、もしシン・マツナガが生きていれば[illegible]の乗機でありましょう。ZZを見ながらよく思ったのですよ、ジョニーライデンやシン・マツナガが出てこないものかと。私だけではないでしょう。

さて、作例は1/144スケールキットを使っていますが、〝あんまし似てない〟というのが[illegible]な感想であり、ボリュームやら[illegible]りやら、その全てを改修してたらおそらくスクラッチするのとかわらなくなるので、気がつかなかったフリを決めこみ、ボディ及び脚部をストレートに組み、好みに合わせ腕、頭、ランドセルのデザインを変更、つ[illegible]り自作してしまいました。[illegible]に頭、んーどう見てもザクくないんだなー、これが、86年11月号の岩瀬氏のザクを見て以来、再びザクに目ざめてしまった私としては〝いやだ〟と思ってしまうわけで、だからと言ってザクそのままではまずいし、なるべく今っぽく、かっこよく、それっぽくを念頭に、ポリパテをカリコリと削り自作してみました。さて腕、これもやっぱり〝いや〟、だから筋肉質のラインに自分の好みを加え、頭部同様にポリパテをカリコリ。シールド・アーマーも流用パーツとプラ板ででっちあげる。さてランドセル。これはもとのデザインが嫌いという訳ではないのですが、ボリューム不足のようなので、キットよりタンクを切りとり、あとはプラ板とジャンクパーツを使用。後にこけてしまいそうな位が好きなのですねー、それと最近流行(はやり)の多方向に細長いタンクがのびているタイプ。これはあえてさける事にしました、きっと他の人がやってくれると思うので(本当にそうなった)。

あとは表面スジボリやら、プラ板の小片をハリハリしてやり、エアブラシでピュピュピュッと吹いてやれば完成であります。使用したカラーは、白、インディブルー、シャインレッド、ネービーブルーであります。アサノ君はこの一連のカラーを、健ちゃんカラーと呼称し、作例持ちこみの際、私を[illegible]肉るのであります、ワンパターン[illegible]いかと言いたくなってしまう、[illegible]いけど。

あーまた[illegible]忘れていた、右手に[illegible]っているのは、ヒートホークもどきヒートなたでありまして、プラ板[illegible]自作したもので、イメージソースは、あさりよしとう氏の「中空地防衛軍」に登場する、ジョニーシンデン・カスタムタイプ・ホゲラが使用していた[illegible]であります(絵はほとんどなただった[illegible]チャンスがあったら読んでみてください、笑えます。

さて仕事をはなれた話をちょっと。私以前より子門真人さんのファンなのですよ、さいでがす、あの〝仮面ライダー〟の主題歌の、そうあの〝泳げタイヤキ君〟の子門さんです。その[illegible]いファンの子門さんが、久々にアニメのテーマソングを歌っているのですよ、いや一何年振りであろう、思わず[illegible]てしまった〝マシンロボ クロノスの逆襲〟のEP、やっぱりいいな一子門さん、[illegible]渡辺さんでノリはいい[illegible]、歌詞にいたってはほとんど意味がなやたらと男っぽく、しさがって私は仕事の際にはこの曲をきき、志気をためているのであります。

▼素[illegible]みキットとの比較。頭部、[illegible]などを完全オリジナル化した為に大幅な改造に見えるが、その他はキットを生かした作りである。

▼[illegible]は、完璧なデザイン変更。キャラクター性が強い形状だ。「んー、気持ち大きすぎたかなあ?」(草刈談)

▲設定画に近づく様に、リファインされたひざあて。ノズル横のディテールも注目だ。別冊ミッションＺＺのヤツと比べてみよう。

今月は良く出来たから握手券♪

バンダイ1/144スケールキット改造　AMX-011MC　ザクIII改(マシュマー・セロ　カスタム)
製作・文　横縞みゆき[昔無'86]←ウソ

モビル
オリズル
いいよなあ
オレ…
バカで…

しぇからしか！わちが三代目じゃ!!
てなもんで、横縞（腰痛のエジキ）みゆきです。

さて、別冊ＺＺは買ったかな？　どうでもいいけど、このマシュマーカスタムは別冊に載った物のリメイクなワケだ。本当はもっとガッツンガッツン直し倒そうと思っていた矢先に腰痛に襲われたもんで、椅子に座ってられないんだ、コレが。みんなも腰痛のエジキになりたくなかったら、日頃から■を使った運動をしておこう！

そういった訳で、別冊でやり残した所すら直せずに終ってしまったのだが。それでも少々手を加えた部分もあるので書いときマス・大山。

○頭

作り方は図を見て下さい（どちらかと言うと、別冊のより設定に近い。でも、やっぱりインチキ）。

○胴体

胸は、ブロックごとに切り離し、可動部を殺さないように幅詰め。少々やり過ぎたみたいなので肩との間に、出所のはっきりとした血統書付きの流用パーツを使って誤魔化しました。

腹部は、別冊で作った時点でもボリューム増ししてあったのですが、まだ細いと思ったのと、腰アーマーの付根を隠す（設定じゃ判らない）ために、インチキな形状変更が行われています。

スカート部はブロックごとに切断して適当に大きくします。リアの大きなスカートはプラ板ですが、この板状アーマーをいかにサイドスカートの曲線と馴染ませるかが問題で、私は設定無視して折り目をつけてしまいました。

○脚

股は上下４ミリ、左右２ミリの大型化、膝下は３ミリ程度幅詰めをして、足首の取付け位置を前にずらしました。他は図を見て下さい。

○腕

なんとビックリ。別冊の時、時間があったら直す、と言ってた部分を今回は腰が痛いと言って、■たもキットのさんまのまんま。ハイドボンブ投下器付きスパイクアーマーは、トゲ以外はプラ板。

○バックパック

ハイザックの肩アーマーのパーツを加工したものに。プラ板の箱組みを取りつけたもの。補助スラスターはヒートプレス。もう一回り大きくしたかったけど、腰が痛いんだもの。

○その他いろいろ。だからイロイロ。

ＭＧ一のヘタッピ横縞としては、スジボリが出来ないのです。ゲージあてても汚くなってしまうのです。ですから今■ディテールアップはプラ板のコマ切れ貼りがほとんどです。私のが参考になるとは思いませんが、注意した点としては、スジボリより目立つので全身くまなく貼ると悲惨ですので、部分的に集中させることと、コマ切れの形に変化をつけることです（誰でも知ってるか）。

塗装は水性アクリルのエアブラシ。色はアニメ仕様のグリーン。膝アーマーは本当は赤なのですが、うるさいと思ってグレーにしましたが、赤くすれば良かったと思って後悔しています。でもって、ザクIII大会とか言って新井君や星野君のメチャ上手いのと並べられる訳で気が重いわ。

御覧の様にスラスター内部は筒抜け。

▶スラスターは、股間のユニットと一体な訳だ。

■素組みキットとの比較。■選手の作例は、いわゆるキットのスーパーディテールアップだ。設定書に近ずけるべく、各部を新造＆改造している。

▶これがバズーカマウント■のラッチだ。

ヤッピー／　この間レッドミラージュで死んだと思ったら、復活のザクIIIです。

キットは一見タマゴＭＳのようですが、ちょっとした改造で重量感のあるいいザクになると思います。But‼ 今回の作例はポイントを絞りこまなかったため■■な作業量になってしまいました。ワンポイント改造を期待していた方はゴメンナサイ。

頭

ノーズ部を切り離しておいてから■と大胆に幅ツメ、ノーズは付け■の方でちょっと幅ツメしてから再接着。あとスリットは使えないので新造、ツノは好みで１本にしてあります。うーん、キットのふてくされたような顔も捨てがたいけどネ。

■

中央部は面取りがカッチョ悪いので新造。それから頭が小さくなっているので「ハの字」を一層キツくし、強引にバランスをとりました。

■

ちょっち■さが目立つし直線的なので新造したけど、せっかく面白いギミックになっているのでそのままの方がいいかもしれません。

■

ポーズを取らせるためにスカートを三分割、後部スカートは小さいしラインも不自然なので新造しました。股間ブロックは下方で３ミリ■■増ししてあります。

■

シールドをコレもんで大型化、左肩のスパイクを新造した他は目立った改造はありません。

脚

●大腿部……１ミリ幅増し。

●スネ……ヒザあて・その下のアーマー・後ろの角ばったブロック・動力パイプ受けのバルジを切り取り、それぞれ新造。左右のスソも延長してあります。幅ツメもしてみましたけど必要なかったかもしれません。

■■首………幅ツメし、ツマ先の面取りが変なので直します。カカトは出した状態にしました。

BACK PACK

あさのさんと相談してリゲルグの物にしました。ただし、キット（リゲルグ）の物は小さいので使えないのでした（これは楽だと思ったのに）。結局プラ板で作ることに……悲ピー／でも割と似合うでしょ？

ビームランチャー

これは小田氏の準備稿と明貴氏のラフ稿に描かれていた物にアレンジを加えた物で、一応ビームランチャーのつもりです。胸のラッチ（ラッチなんですよ、アレ、ＴＶじゃガス吹いてましたけど）に接続されるのですが、キットのラッチには付かないのでラッチの形状を直す必要があります。工作はきわめていいかげんで、しっかり中にキットのライフルが流用されていたりします。雰囲気、雰囲気㊂

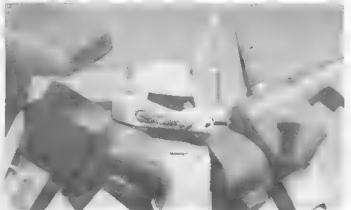
PAINTING

これがまた強引で、基本色二色は[illegible]ンゼのサフェーサーとフィールドグレー(I)の缶スプレーです。ただ、[illegible]にフィールドグレーの方は途中で[illegible]アーブラシに移しかえて吹きま[illegible]ど……。あとは関節部にメタ[illegible]のアイアン、センサーにクリアーグ[illegible]ーン、モノアイは蛍光ピンクです

というわけで何とか完成しました[illegible]ＭＳなんて作ったの何[illegible]一時はどうなることかと思いましたがやっぱりチャチなものになってしま■した。あー情けない。次回（[illegible]ばの話だけど）からは、もっと[illegible]が作れるように、吉沢秋絵chanの「蒼い鳥を探して(FL)」でも聴きながら[illegible]ッツンガッツン頑張りたいと思います。

以上、「お習字の時間」でした。

〔P.S.〕中村由真chanもポイン[illegible]よな。と思ったまでは良かったた[illegible]め切間際にデビューイベントに行ったのは間違いでした。後で徹夜の嵐[illegible]ってやんの。自業自得……（[illegible]ってさ、甲斐智枝美だよな、[illegible]さ。GO／GO／ チアガールってな[illegible]だこれホント。『あ』）

▼頭部は、１本ツノとしている。また、モノアイの走るレールが掘ってある点がポイント／

▼バックパック■リゲルグの物を装着。(キットのは小さいんで。結局スクラッチ／ ■ールスカートは、大型化している

AMX-011F ZAKUIII

Modeling by Mitsuhiko HOSHI

ザクⅢ・F型
製作／星 光彦

量産型MSへの歩み

量産型を前提に開発が進められたザクⅢ。
結果的にはインコム・システムが
有望視されたドーベンウルフに
量産の道を譲る事となり、
皮肉にも謀反をひるがえした
グレミー・トト軍の主力機である
このドーベンウルフを向えうたなければ
ならなかったザクⅢは、
悲劇の機体と言えるだろう。
量産を考慮に入れていたその証しとして、
機体各部に設けられた
多数のラッチが挙げられる。
エキステンション・ブースターを取り付けた
G型に代表されるオプションの数々は、
このF型のリゲルグと共通のバックパック、
腕の下に装着されるバズーカなど、
実に多彩であり、汎用性の高さを
垣間見る事ができよう。
デビュー2作目の星選手作のザクⅢは、
小田雅弘氏設定による
バズーカのマウントをメインに置いた製作。
バックパックは、初期[illegible]にあった
「リゲルグと共通」[illegible]採用。
その他、各部は設定を膨らませた
イメージでディテールアップ。
そのほとんどが新造パーツとなってしまった。

よくもまあ、これだけワンメイク機を作ったもんだ。
中には連邦の〝ヘルメット野郎〟のコピーまであるじゃないか。
1年戦争を生き残った連中—俺も含めて—は、どうしてこんなに〝ザク〟にこだわるんだ。
聞くところによれば、その気になればドライセンだって回してくれるそうじゃないか。
何も今さら〝ザク〟などに乗らなくたって……
まあ、俺もそんな馬鹿な連中のひとりな訳だが。
あの緑に塗られたヤツ、どうにかアレに乗ってみたいもんだ。
やっぱりザクの頭はああでなきゃいけない。モノアイがついてりゃいいって訳じゃあ無い。
まあ何にしろ、あの凶悪なガザとは今日でお別れできそうだ。
どいつが回ってくるにしろ、とにかくあの〝ザク〟なのだから。

AMX-108 ZAKUIII "MARASAI II"

Modeling by Yasuyoshi HASEGAWA

製作／長谷川[illegible]吉

そして再び、ジャブローの嵐!!

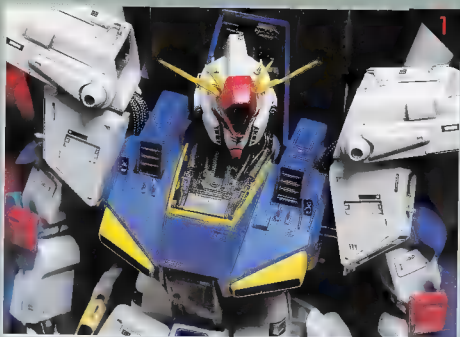
地球連邦軍(アナハイム・エレクトロニクス)は、一年戦争後にZIONIC社の技術を導入したMS、
RMS－106ハイザックを開発した。
ムーバブルフレーム、リニアシート等の新技術を導入したこの連邦製の新MS、
しかしその外観はジオンのザクの、それであった。
後にそれはRMS－108マラサイへと流れる。
"最後のザク"と言われたマラサイであったが、
アクシズの出現→ネオジオン軍の成立→ザクIIIの開発により、
再び前[illegible]に"ザク"が登場する事となった。
マラサイのポテンシャルの高さをザクIIIへ移植――
安直な発想ではあるが、アナハイム・エレクトロニクスの技術には
ほとんど無関心で[illegible]ったアクシズにしてみれば、
連邦製ザク・マラサイは旧型にしろ見習う所は大だったのかもしれない。

絶大なる人気を今だ誇るマラサイを、ザクIIIベースにマラサイIIへと改造だ。
アーマーに内蔵されたメガ粒子砲は、
回転式でグリップが現れるデザインに変更、
その他各部を異和感が生じない様にアレンジしながら
マラサイのディテールを移植してやった。
カラーリングはもちろん、オレンジ系としている。

MS-06 ZAKUIII *Modeling by Toshiaki HOSHINO*

"ジーク・ジオン!!"

何と言っても、一言では語り尽くせない物がある。
ジオン軍の汎用型量産MSの名機・MS－06"ザク"。
数々のバリエーションモデルを生み、そしてMS－07グフへ、
MS－09ドムへと発展していく。
ネオジオン軍製作のザクⅢは、
もちろんこのザクの流れを組むものである。
が、アーマーに内蔵されたメガ粒子砲、
AMBAC機構を備えたランドセル、
そして口から発射されるメガ粒子砲……
一年戦争を"ザク"できり抜けた強者たちは、ザクⅢを、
固定武装を取りはらったこんな重MSへと
改造しているかもしれない。
彼らはそんなザクⅢを、"ザク"としか呼ばないだろう。
と、そんなイメージソースで、
あくまでも"ザク"というコンセプトで製作した星野版ザクⅢ。
頭部は形状にややザクⅢの面影を残しながらも、
むしろザクⅡに近い。
スパイク・アーマー、シールドも
ザクⅡと同型の物をボリュームアレンジし、
表面はツイメリット・コーティングを施こしている。

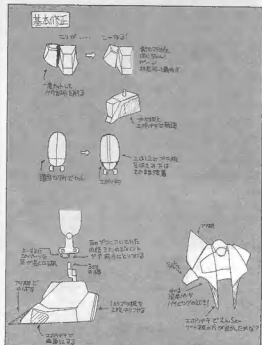
ザクIII重MSタイプ
製作／星野利康

ZZ GUNDAM

1.胸元に書かれた“VMsAWrS”（ヴァモーズ）は、エゥーゴ・メイドのトランスフォーマブルＭＳの証である。元々はＭＳＺ-006の開発にあたってつけられた名称であったが、すでに“ウェイブライダー”が言葉の意味を失ないつつある今となっては、(ショック・ウェイブとは[illegible]係）エゥーゴ内ではＴ■Ｓにすべてこのマーキングを[illegible]き込む。

2.肩バインダーには、ＭＳモード時に有効なスラスターを片側で２箇所増設。

[illegible].バックパックは大型化され、ノズルは２個から４個へ。出力増加分の放熱用ムービング・フィンも増設している。

3.ふくらはぎにあったスラスターは、強化されかかと上に移行。もちろん、トランスフォームにさしつかえは無い。

5.6.塗装前の状態。(ディテールは、まだ。)御覧の様に、プラ板を多用して新設定部を、元のキット自体は削り込んで細身かつダイナミックなプロポーションへと変更し製作。

▶フロントアーマーに内蔵されたメガ粒子砲は、この様に回転して現れる。グリップ付きだ！

19粒の角砂糖♪
(だから何なんだよ!?)

バンダイ1/144スケールキット改造　AMX−108 ザクII"マラサイII"
製作・文／長谷川保吉

みなさんこんばんわ。毎回しょーもないことばかりやっている長谷川です。そんな私も今年は10代最後の年な訳で、少しマジメになろうと思ったりするんですが、ま一続かないでしょうね。

で、今回はザクIIIなんですが、なんと競作っつーことで私の他に上手い人がたくさん参加してるんだよね。うーん、またもやプレッシャーがっ。でも逆に考えればわりと自由に造形ができる訳なんでこりゃいーや。(同じの作ってもおもしろくないもんね。)

ザクIIIのマラサイ風。今回これを作りました。コンセプトデザインをあさのさんに描いてもらって、それを元に作ってます。(感謝しろヨ！『あ』)

頭関係。ヘルメット部分は最初マラサイのものを削っていたんですが、いまいち小さい気がしたんでそれを元にヒートプレス。チョンマゲ等付属品はエポパテ。バルカンのふくらみはポリパテで中に金属パイプをしこんでおきます。インナーヘッドはマラサイのものを幅増しして使用。モノアイカバーをヒートプレスして付けます。

胸関係。これはも一図を見てもらった方が早いですね。

胴関係。これはもーウエストが細い！別に細いのはキライじゃないけど、胸部分とのバランスが悪いのでちょいとディテールを付けてみました。スカートはマラサイ風に構成。これはザクIIIのよーにしたかったんだけど、フロントアーマーが大きくてどーしてもラインがうまくつながらないんでやめたんです。フロントアーマーにはジオのかくし腕のよーなメガ砲が付いていますが、何か細くて弱そうだよな。うしろのアーマーもジオ風に大っきくします。ゲーマルクのイメージも多少あるかな？

[illegible]係。とにかく肩が小さいんで。(設定も小さいんだけどね。)もったいないけど百のハイザックから流用してます。ひじから上はハイザックのものをつめて使用。関節とそこから下はほぼザクIIIのまま。手首は親指だけ変なので作りなおしました。

シールドはプラ板のはりあわせ。スパイクアーマーは百のノーマルザクのもので接着面をややつめたりいろいろやったので原形をとどめてません。スパイクはエポパテです。

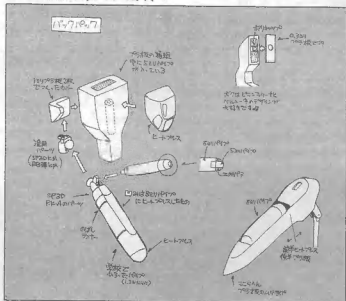
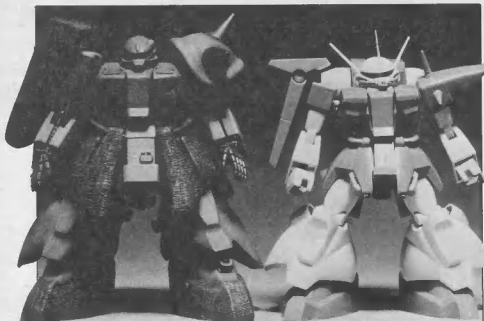
[illegible]係。図を見て下さい。

武器関係。いっちょんちょんとは言えボリュームがかなりあるんで、やっぱりバズーカです。百のザクバズーカをアレンジして使ってます。あっわすれてたけどバックパックは図を見てね。

塗装関係。あさのさんのマラサイの記事を参考にモンザレッドやらサファリオレンジとかで塗ってます。何だったらバックナンバー見てほしーですね。で、やっぱり赤ってのはむずかしい。しかもグロスだし、始めてのラッカーだし。頭イタイよ。ホント。

おしまいです。うーん、もしかして私のザクIIIがいちばん完成度が低いんじゃないかなとか思ったりして。時間かけた割にあんまり良くなかったよーですが、まーいいや。でもガンダム最後の仕事がザクであり、マラサイであったのは本当にラッキーでした。そんじゃ。

▶4月1日発売 3rd Collection『SIXTEEN』もチェックよろしくね♡『あ』

◀シールドに書かれた"MC 922"は。決してマシュマー・カスタムの略では無いぞ！　わかるヤツにはわかるから。あえて答は書かないぞ！　モモコクラブ・[illegible]出席番号922番とか。

▲■■みキットと比較。もうすでにザクⅢとは呼べない!? 誰にも気付かれずに5㎝身長が延びるシークレットブーツをはいている様な足のボリュームがいいぞ！

▲サイド・ビュー。やはり左肩のスパイクアーマーが力強い！

▶すねのディティール。流用パーツを生かして、それらしく。

シーラ様、これはザクⅢではありません"ザク"です。

バンダイ1/144スケールキット改造　MS−06　ザクⅢ重MSタイプ　製作・文　星野利章

★製作

いきなり■作記事です。ザクⅢのキットをベースにザクⅡのイメージを投影させ、陸戦用に仕立てたのが今回の作例。

頭部はキットのパーツを幅つめして口ばしをプラ板で伸ばし、ポリパテで全体のラインをザクⅡ風にまとめました。胸部は両端で1㎜ほど幅つめ。腕は肩ブロックを1/100ハイザックから。腕部フレームを1/144 WMプロメウスのパーツとプラパイプ等でつくり下腕部はキットのパーツの角を落として使います。手首は1/144 PAノーブのもの。左肩スパイクアーマーはピンポン玉ベースにポリパテ。右肩アーマーはプラ板箱組みです。■■はモビルスプリングでゴチャゴチャさせてやります。腰部ブロックはキットのパーツを芯にプラ板でふたまわり大きく。これに伴いランドセル取付けパーツもプラ板をはさんで幅増し。前面アーマーはプラ板箱組みにポリパテで丸味を。ビーム砲はなんとなく付けてません。側面後面アーマーはキットのパーツを左右に切り離してポリパテで大きくします。とーても重い!!　脚は腿をプラ板で2㎜幅増し。(でもアーマーに隠れて全然見えない) 臑は最初フレアをポリパテで大きくしてバーニアを付けるつもりだったのが、高橋昌也先生の「脚（フレア）の切り欠きが無い方がザクっぽいよな」の一言で切り欠きを埋め、後部にプラ板箱組みのホバーユニットを付けてやることにしました。足首は底を7㎜ほど増し、中にオモリを入れました。取り付け位置も下げてあります。(図を見てね)

表面仕上げですが、全面に溶きパテにポリパウダーを混ぜたものを塗り鋳造風に。部分的にツイメリットコーティングしてます。(これ、一度やってみたいと思ってたら、某誌で先を越されてしまった……) 各部ディテールはWM、SF3D、ミニAFV等から持ってきてます。

塗装です。■ず基本色：ガルグレー＋緑と■少量、を全体にスプレー。次に黒鉄色＋黒をゴチャメカ部、アーマー裏にスプレー。その後基本色に緑や茶を加えたものを三種類ほど作り、全体の調子を見ながら適当にスプレーします。エナメルシンナーに黒を少■加えたもので洗い塗りし、基本色に近い色でドライブラシして完成。あ一■たかった。

一応、1/144 ということですが、私の頭の中では 1/100 くらいで考えています。(ZZって大きいMSがやたら多かったから、その反動が出たのかな？)

★今月のいちゃもん

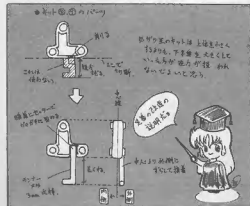
MGはどーも誤植が多い。(特にキャラクター物) 文章を書くのが苦手な私は、一度下■きをし、少し時間をおいてから■低2回は推敲するのだ。漢字の間違いを無くすため幾度となく辞書を引くのは言うまでもない。こうして苦心して原稿を仕上げ、待つこと約一ヶ月。活字になった自分の文章をみると……ウギャー、「壮大」が「状大」に、「機首」が「機種」になってるやんけ～、どないしょ～!!　となるのである。(87年1月号P60参照) ECM君、ごめんね。ペンネームが間違ってました。私のせいじゃないんだよォ。ぐっすん。

(す、すいませーん㊞)

そーそー、1月号といえばWRは思ったより好評で嬉しかったです。どーもありがとさん。中にはミサイルポッドのパーツはなんじゃらほい？　と■いたのを受けて『ミサイルポッドはなあにのコーナー』を勝手に作ってきた方もいました。(技の一号君、君のことだよ) ちなみに正解はご指摘のとおりドルバックのハーバラです。(松戸市の渡来君、山形の池田君、当たりです。) それから千葉市の長君、ロボット物の関節塗装法ですが、私の場合、(組立てをする際に) 関節部だけを先に塗装、テープで丁寧にマスキングして組立てを行ない。全体の塗装が終了したところで。アートナイフの刃先やピンセットでテープをはがす方法をとっています。う～んうまく説明できない。いろいろ研究してみてね。

さて次回は？　マシンロボという噂もあるなァ…。でも私はサジタリウス号がつくりたいなァ。

んで、今月はおしまいじゃ

ほんじゃね。

▶バストショットで見る限り、もうほとんどザクⅡだ。

特別企画・読者の作る"ザクIII大会"だぞ!!

〔総評〕

さて、1月号で呼びかけた「読者参加のザクIII大会、」かなりの応募いただきました。毎度のこと、ありがとネ♡ んで傾向と対策(?)について。はっきり言っちゃうと、「旧ジオン軍のザクIIに戻す」っていうコンセプトの嵐でした。そうしたくなるのはわかるんだけど、ここまで多いと逆に元のキットを生かした作りの方が、目立ったりしたのも事実でありました、ハイ。

さて順に見ていきましょーか。①は星野君の先輩という、[illegible]作のマラサイ風。仕上げはピカイチだけど、デザインにちょっとまとまりが無いかな。②は、頭部がハイザックのレプリカ仕様の「ザクIIIM・Mスペシャル」。カラーリングが美しい！ ③はロングスタビレーター装着型。仕上げをキレイにね！ ディフォルメと記念撮影の④は[illegible]をマシュマー型に改造。これはザクII風ね。ディジェ風のバインダーが付いた⑤は、ちょっとゴテゴテしすぎかナ？「ジェイムス・エイランド大尉[illegible]」という設定付の⑥、唯一フロントアーマーのメガ粒子砲を可動されたのは八須君。エライ!! ⑦は小林誠さんとこでお手伝い人やってた事もある貴田君のジ・オ風(!?)ザク。もうザクとは呼べないね、こりゃ!? ちょっとデザインの煮つめが甘いゾ。常連田中君(模型情報と二股かけないよーに！）の⑧はMS-06R3・ブライアン少佐機。いつもながらまとめ方が上手いね。カラー最後、もうほとんどヒゲさんのドム(！)っつー感じの⑨、大[illegible]力だ。モノクロにいって⑩、マシュマー機は力作だけど仕上げがやっぱりイマイチ。ペーパーでよく磨こう！ ⑪はビームカノンがドワッジ[illegible]の他はほぼストレート。でも、元のキットってそんなに悪くないんだね。⑫は「ザクIII改・改メ、"マシュマーにはこーいうのに乗って花と散ってほしかったスペシャル"」というとんでもなく長いネーミング。仲々デザインも上手くアレンジされててグッド!! 初の完成品、という⑬は竹田君。これからもがんばってちょ。⑭、これも「旧ジオンのザクIIっぽく」がコンセプト。仕上げには好感持てるケド、もうひと工夫ほしかった。さてファイナル、⑮は大迫力・ゲッタードラゴンのダブルトマホークを思わせるザクIII。迫力はスゴイんだけど、コラ。パテ盛ったらちゃんと削れよ!!

そーゆー訳で、またこーいった企画はぜひやりたい！と思っとります。ヨロシクネ。

▲⑪東京都杉並区　荒牧徳行くん

▶⑬愛知県尾西市　竹田健二くん
▼⑮神奈川県茅ヶ崎市　渋谷浩康くん
▲⑩大阪府堺市　渡辺勝彦くん
◀⑫大阪府[illegible]田市　分明信彰くん

◀⑭大[illegible]府大[illegible]市　月元光一くん

▲神奈川県三浦郡　松田未来くん
◀東京都町田市　佐藤　剛くん
▶東京都三鷹市　[illegible]江　治くん
▼岡山県岡山市　滝戸ゆき緒くん

▼東京都品川区　八須　誠くん

▲神奈川県横浜市　仲村拓哉くん

◀東京都杉並区　貴田[illegible]三朗くん
▼大阪府寝屋川市　田中秀和くん

▼宮城県仙台市　西川裕介くん